

令和4年度 前期 学校評価

資料1 自己評価

資料2 生徒アンケート

南アルプス市立
白根御勅使中学校

白根御勅使中学校関係者評価委員会 会則

〔名称及び事務局〕

第1条 この委員会は、「白根御勅使中学校関係者評価委員会」という。

第2条 この委員会の事務局は白根御勅使中学校内に置く。

〔組織〕

第3条 本委員会は、白根御勅使中学校に関わる地域の有識者の中から学校長が推薦し、南アルプス市教育委員会が委嘱する委員をもって構成する。ただし、本校の保護者を必ず含むものとする。

〔目的及び事業〕

第4条 本委員会は、学校の自主性・自立性に基づく教育活動の成果を検証し、学校運営の改善と発展を支援することを目的とする。

第5条 本委員会は、前条の目的を達成するために、年間において前期・後期各1回の委員会を開催する。ただし、必要と認める時には、学校長の招集により臨時に委員会を持つことができる。

第6条 本委員会は、各種の資料の検証や、学校の諸活動の観察等を基に、学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について、次の観点で評価することを基本とする。

- ・自己評価の結果の内容についての検証
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策についての検証
- ・学校の重点目標や自己評価の評価項目等の検証
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みの検証

〔役員〕

第7条 この会には、次の役員をおく。

委員長（1名）、副委員長（1名）、事務局（1名）

第8条 役員を選出は次による。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。
- 3 委員長は、本会を代表し、会議の座長となる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故ある時にはその職務を代理する。
- 5 事務局は教頭があたり、庶務を司る。

〔守秘義務〕

第9条 本会の委員は、役職上知り得た秘密について守秘義務を負う。退会後も同様とする。

〔附則〕

この会則は、平成20年9月1日より施行する。

令和4年度

白根御勅使中学校関係者評価委員

秋 山 契 様

入 倉 浩 二 様

有 野 正 也 様

茂 木 晋 一 様

三 井 美由紀 様

1 学校評価の目的

- ① 各学校が、自らの教育活動その他学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

2 学校評価の方法

- ① 自己評価は、全職員による自己評価をもとに、生徒・保護者へのアンケート（生徒年2回、保護者年1回）の結果を加えて行う。
- ② 自己評価は、年2回行う。
- ③ 自己評価の結果を踏まえて、学校関係者評価委員会による学校関係者評価を年2回行う。
- ④ 自己評価と学校関係者評価の結果を公表する。
- ⑤ 自己評価と学校関係者評価の結果をもとに、改善点を全職員で共有し、来年度以降の学校教育に活かしていく。

3 前期自己評価

I 自己評価の具体的方法

- ① 本年度の学校教育目標をふまえて、評価項目を決定する。
- ② 全職員が評価項目を4段階で評価する。
 - 4 ; あてはまる
 - 3 ; どちらかというにあてはまる
 - 2 ; どちらかというにあてはまらない
 - 1 ; あてはまらない
- ③ 全員の評価結果を集計し、項目ごとの平均値を算出する（小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁で数値化）。この平均値を次のカッティングポイントに照らして、判定する。

3. 0以上	A (概ね良好である)
2. 9～2. 5	B (工夫・改善の余地がある。)
.....		
2. 4～2. 1	C (工夫・改善が必要である。)
2. 0以下	D (根本的に工夫・改善を図る必要がある。)

- ④ 全生徒と全保護者（後期のみ）に向けて行うアンケートは、職員の自己評価項目と関連させながら項目を決定し、職員の自己評価同様4段階の数値で評価する。アンケートの結果から項目ごとの平均値を算出し、職員の自己評価と同じカッティングポイントで判定（A～D）する。
- ⑤ 職員による自己評価をもとに、これに生徒・保護者（後期のみ）へのアンケート結果を加えて自己評価書を作成する。

II 前期自己評価結果（自己評価書）

南アルプス市立白根御勅使中学校	令和4年8月10日（水）作成
学校長 岡 こそえ	記載者氏名 教頭 大間 俊男

1 本年度の学校教育目標

- (1) 校訓 「一生懸命」
- (2) 学校教育目標 「志を持ち 道を拓く生徒」
- (3) 目指す生徒像
知を磨く生徒 心を耕す生徒 体を鍛える生徒 故郷を愛する生徒

(4) 令和4年度指導重点

- 「新しい時代に必要となる資質、能力」をはぐくむ教育課程の編成
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた確かな学力の育成
- 様々な体験活動を通じた豊かな心の育成
- 実践活動から鍛える、健やかな体の育成
- 地域や世界で活躍できる人材の育成
- 途切れのない特別支援教育の充実
- 教育全体の土台となる学級経営の充実

2 職員自己評価(資料1)、生徒アンケート(資料2)について

令和4年7月に、学校職員による自己評価及び生徒によるアンケートを実施した。その質問項目と集計結果を、資料1と2に示した。

本年度自己評価の評価項目は、昨年度と同様にした。この評価項目は、令和2年度に学校職員や、生徒の状況等を考えた内容項目に見直した。なお、No.26の意見の記述については、昨年度までは評価2と1についての意見を求めていたが、本年度は4と3についての意見も求め、幅広く意見を集約することで今後に活かしていくことにした。

生徒アンケートも、昨年度と同様な質問項目にした。なお、No.21については、昨年度までは、「白根御勅使中学校の良いと思うところ」を記述させていたが、本年度は「良いと思うところ、また全校で直したほうが良いこと」というように、職員自己評価と同様に幅広く意見を集め今後に活かしていくことにした。

保護者アンケートは、年1回後期のみの実施である。学校の様子が保護者にも十分伝わった後期にアンケートを取り、その後及び翌年度の教育活動に活かしていく。項目は生徒アンケートと内容を一致させるように見直した。尚、自己評価及び生徒・保護者アンケートともに、昨年度同様、記名式とした。

昨年度は新型コロナウイルス感染症防止対策のため、学習活動や行事の面で内容変更、部活動の活動制限や大会自粛など、多くの教育活動が通常通りできない状況であった。本年度は、感染症対策を徹底する中で教育活動がほぼできている。しかし、コロナ禍の状況は続いているため、できるだけ活動内容を工夫しながら行っており、その中での前期学校評価結果となっている。これまでの考察をしっかりと行い、今後もコロナ禍の状況が続く中、教育活動を工夫しながら、不易流行をしっかりと考え、教育活動を行っていきたい。

3 評価と改善策

(1) 全体的な評価

今年度の職員による自己評価の傾向は、全25項目中24項目がA判定となった。B判定となった項目も小数第2位を四捨五入して平均が3.0となっていることからA判定に近いとみることができる。この結果から、本校の教職員がそれぞれの項目に対して、高い意識を持ち誠実に取

り組んでいることが見てとれる。

しかし、昨年度の後期の値と比べると、値が上がったのは3項目であり、18項目で0、1～0、9ポイント下回っている。これは、年間の目標を見据えた中での中間評価のため、残りの期間を考えたり、生徒の成長の伸びしろを意識したりして厳しく評価する傾向があること。また、コロナ禍での活動が長く続いていることが、教職員の意識にも影響を与えているとも考えられる。

生徒アンケートについては、全19項目がA判定であった。昨年度の後期と比べてみると1項目が上がり、11項目が下がっているが、どの項目も0.1の下がりであるため大きな変化ではないと考える。上がっている項目は、「先生は、心配事などの相談にのってくれる」である。思春期の中で友達関係や進路決定に向けて悩んだり、コロナ禍の中で先が見通しにくく不安になったりする時期である。その生徒の悩みや不安を受け止める役割として教師の存在を生徒が意識していることは、日頃の本校教職員と生徒の関係が良好な方向に進んでいることが伺える。今後も、生徒との信頼関係づくりに努めていきたい。

本年度前期の白根御勅使中学校の生徒は、大きな問題行動もなく、授業や部活動に真面目に一生懸命取り組む姿が見られた。また、学校行事では、総体に向けての壮行会で声を出しての応援、吹奏楽部の演奏による校歌斉唱などコロナ禍以前の活動を行うことができた。また体育科の水泳指導も、3年ぶりに再会することができた。一方、PTA総会や早朝作業など多くの人が参集しての活動は、未だ難しい現状である。

現在、少しずつではあるが、教育活動を以前の姿に戻していくことを本校職員一丸となり知恵を出し合い、工夫しながら行っている。しかしながら、このことを進めていくには、家庭と地域の理解と協力をなくしてはできないと考える。今後も、家庭と地域の理解と協力を得ながら、一つ一つの課題にしっかりと対応し、白根御勅使中学校の教育水準がさらに高まっていくよう努力していく。この前期学校評価の結果を職員全体で共通理解し、改善に努め、2学期以降の教育活動に生かしていきたい。

(2) 各項目の評価と改善策

評価項目Ⅰ 「学校教育目標」に関して
<p>【自己評価】</p> <p>2項目ともA判定の高い評価であった。教職員が日々の教育活動において、心にとめる中で、一生懸命取り組んでいると考えられる。一方、日々の教育活動に追われ意識するのが難しかったという意見もあった。</p>
<p>【改善策】</p> <p>学校教育目標を具現化するため、日々の教育活動の中での実践が大切である。教職員一人で学校教育目標を達成することはできず、共通理解はもちろん「チーム御勅使中」として全職員で取り組む必要がある。「目指す生徒像」の4つの姿を意識した教育活動を展開していくためにも、教職員が協働していくことが大切である。</p>
評価項目Ⅱ 「学校経営・学校運営」に関して
<p>【自己評価】</p> <p>6項目すべてがA判定であり、特にNo.3と5については、昨年度後期より上がっている。学校経営と学校運営は、連携しながら取り組むことが大切である。No.3と5の評価項目の中に「相互理解や信頼関係を深めて」「報告・連絡・相談・確認」という言葉がある。現在、縦のつながり（管理職と教職員）と横のつながり（教職員同士）は、良好だと考える。</p>
<p>【改善策】</p> <p>今後も、「チーム御勅使中」として取り組んでいくことが大切である。組織力を高めるほど、個人の自信につながり日々の教育活動につながる。今後とも、縦のつながりと横のつながりを大切にしながら職場づくりを進めていく。</p>
評価項目Ⅲ 「学習指導」に関して
<p>【自己評価】</p> <p>自己評価Ⅲ学習指導の項目でNo.9.10の評価項目が高くなっている。教職員が、授業づくりについて日々指導改善を行いながら授業を行っていることがわかる。このことは、生徒アンケートNo.16「先生はわかりやすい授業をしている」の評価項目が、3.6の高い評価になっていることから、伺える。しかし、生徒アンケートNo.3「私は、授業の内容がわかっている」の評価項目では、3.2の評価で26人の生徒が2と1と評価している。また、No.5「私は、家庭学習（塾なども含む）が習慣になっている」の評価項目では、3.0の評価で58人の生徒が2と1と評価している。今後、学習指導として、学校と家庭とが協力して生徒の学力向上に努めていきたい。</p> <p>本年度は、コロナ禍ではあるが、感染状況を踏まえながら授業内容の制限の緩和を行ってきた。例えば、対話的な学習やグループワークでの学習、音楽での合唱活動や体育での集団活動などの授業を行うことができた。本校では「やまなしスタンダード」を意識した授業づくりに継続して取り組んでいる。また、校内研究会に大学教授を招聘し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた</p>

研究を進めてきており、質の高い探求課題に小集団で取り組む授業の形態を研究している。さらに、昨年度よりICTを活用した授業にも取り組んできている。

【改善策】

本校の課題として学力の向上があげられる。落ち着いた授業の様子が見受けられるからこそ、学力の定着、向上に是非つなげていきたい。

そのために教師は、質の高い授業づくりに引き続き務めていきたい。校内研究会を実践的な研修の場として、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、GIGAスクール構想に伴い、ひとり一台端末・ICTを活用した授業にも積極的に取り組んでいきたい。現在、授業の中でも、問題演習や考えをまとめること、意見を述べることなど様々な活用を模索しているところである。今後より効果的な活用を目指していきたい。

また、家庭と連携して家庭学習の習慣化につなげることを行っていきたい。現在、家庭学習の取組として、1・2年生は主に自主学習を行わせ、個々にあった学習を進めている。2年生の後半からは、少しずつ高校受験を意識していけるように問題演習を含む課題学習に取り組んでいる。また校内テスト（中間・期末テストなど）の直前には、家庭学習で勉強取組表を用いて、学習時間の確保に努める取組を行っている。家庭にお便り等で知ってもらい、理解と協力を得ながら確実に正しい家庭学習の習慣化につなげていきたい。

評価項目Ⅳ 「生徒指導」に関して

【自己評価】

今年度前期も、大きな問題行動はなく、生徒たちは規律をもって学校生活を送っている様子が見られた。

自己評価でも、No.15「生徒理解のために生徒とのコミュニケーションに努め、誠意をもって接している」の評価3.7、No.16「生徒の努力や良い点を認め、励ますようにしている」の評価3.7、No.18「いじめや問題行動等の未然防止・早期発見・早期対応・早期解決に努めている」の評価3.8となっており、教職員の意識の高さが伺える。

生徒アンケートにおいても、No.9「学校で確認したルールを守っている」の評価3.6、No.10「命の大切さを理解し、交通ルールを守っている」の評価3.7、No.11「仲間を大切にし、いじめや仲間外れをしない」の評価3.8と数値が高いことから、生徒の意識も高いことがわかる。

本校では、未然防止に力を入れている。実際、生徒会本部が中心となって生徒総会の中でトラブル防止の宣言を提示するなどの自主的な取組を行っている。また、一人一台端末については、「GIGA開き」として、PCの使い方について指導を行ったり、防犯教室としてネットトラブルについて集会を開いたりルールや危険性についても指導している。このような取組によって、生徒たち自身もルールをしっかりと守り、落ち着いた学校生活を送ろうという意識を持たせることができたと考えられる。

一方、生徒アンケートの意見に書かれているが、少数ではあるが規律やルールについて意識を持って行動してほしい生徒もいる。今後、教職員だけでなく、生徒と一緒に考えていく機会を増やす

ことで、落ち着いた行動につなげていきたい。

【改善策】

今に至るまで、落ち着いた学校生活を送っている生徒が多いが、様々な悩みや問題を抱えている生徒もいる。

日常の中では、担任との生活ノートでのやり取りや生徒指導を中心にした生活アンケートの実施、全職員の生徒への声かけなど、多様な方法で生徒の声に耳を傾けている。

本校には、スクールカウンセラーが、週1回在勤している。不登校傾向や様々な悩みを抱えている生徒や保護者が教育相談を受けている。また、複雑な家庭環境の中、学校生活を送っている問題行動につながりそうな生徒もいる。このことから今後も積極的に、スクールカウンセラーや外部機関と連携し、安心して学校生活を送れる環境をつくっていききたい。

また本校では、週1回生徒支援委員会を開催し、校長・教頭・養護教諭・生徒指導・学年・特別支援コーディネーター・スクールカウンセラー・スクールサポーターが参加し、チームとして生徒一人一人の生活を把握し、指導方針について話し合っている。悩みを抱えている生徒を担当や学年職員だけに任せるのではなく、全体として専門的な意見を取り入れ、適切に対応していけるように、今後もしっかりと委員会を機能させていきたい。

今後も、様々な方法で生徒の小さな変化も見逃さないよう全教師で取り組んでいく。

評価項目V 「家庭・地域との連携」に関して

【自己評価】

3項目とも昨年度後期の評価より下がっている。家庭訪問、三者懇談など個に関わる教育活動については、コロナ禍ではあったが実施することができたが、PTA総会、学年・学級懇談会など保護者全体に関わる行事は、できない状況が続いている。この状況に、教師の意識は家庭、地域との連携の大切さを改めて感じているためだと考える。

自己評価のNo.20は、本年度も学校・学年だよりやホームページの更新などを発信してきた。学校だよりについては、自治会の回覧にも入れてもらい、地域の方々にも理解してもらっている。しかし、教職員の意見の中には、学級だよりなど伝えたいことができなかつたと振り返るところがあった。教職員の業務の多忙化が原因となっており、一考する必要がある。

このような中ではあるが、生徒アンケートNo.15「家の人と話をする」の評価が3.8となっていることは、御家庭の御協力によるものだと考え、感謝したい。

【改善策】

コロナ禍の中で、どのようにして家庭・地域と連携していくのが、課題となっている。PTA活動については、参集して参加してもらう形式から紙面開催やメール等で呼びかけ、意見をいただく形に変えていったり、授業参観を地域分散型に行ったりと工夫しながら今後も行っていく必要がある。しかし、このような形で継続していくとなると、教職員の業務が増え、多忙化に拍車がかかる。なので、最低限なことから進めていくことも必要である。

来年度から小中一貫校が、スタートする。白根百田小、白根源小、白根御勅使中の3校が、各学

校や小中学校の垣根を越えて、義務教育9年間を見通して教育活動を行うことになる。これまでも、そのための取組を、少しずつ進めており、その一つが小中合同で行った地震災害による保護者への引き渡し訓練である。家庭・地域に情報を提供し、学校のことを理解していただくことはもちろんのこと、学校の教育活動に参加していただくことも大切であると実感した。また現在、小学校に通っている家庭から中学校の様子を聞かれたりしている。これは、白根御勅使中学校の様子が、見えているようで見えていないのが、現状だともいえる。今後、家庭・地域との連携をさらに進めていく必要がある。

VI 「学校の特徴」に関して

【自己評価】

自己評価では、No.23「朝読書」の評価は、3.6と高い。教師間でも、「読書の時間はしっかり確保すること」「読書の時間は読書をさせること」の2つを共通確認として取り組んできた。生徒アンケートの意見でも、「本がたくさんある」「図書館にいろいろな本がある」など良いところとして挙げている生徒がいる。また、図書委員会の活動として「ミダイの1行大賞」と題して、心に残った1行を選び、なぜその1行を選んだのかを書く取組を行ったり、生徒が図書だよりの中にお勧めの本を紹介したりと学校全体で取り組むことができた。

No.24「学校や地域で進んであいさつをしている」の評価は、3.0でB（小数第2位四捨五入の関係によりB）と低い結果となった。自己評価の意見として「自主的なあいさつ」について達成できていない意見が多くあった。生徒アンケートでは、No.7「あいさつを大切にしている」の評価が3.6となっている。学年別にみると学年が上がるにつれて評価が上がっている。教師の評価と生徒の評価にずれがあるが、生徒アンケートの意見では、「あいさつをもう少し増やしたい」「あいさつが少ない」など全校で直していったほうが良いとして意見を述べている生徒がいた。

No.25「生徒は、部活動や学校行事へ積極的に参加している」も3.3ポイントと低い結果であった。自己評価の意見でも「コロナ慣れ」を危惧している意見があった。一方、生徒アンケートでは、No.13「部活動や習い事に真面目に取り組んでいる」の評価が3.7と高くなっている。このことは、今日までに多くの教育活動に、コロナ禍での制約が付き、通常活動がなかなかできていなかったために、通常活動を行うことが、負担に感じている生徒もいるのではないかと考えられる。

【改善策】

本校では、「朝読書」「あいさつ」「部活動や学校行事」を学校の特徴として挙げている。今後は、それぞれの課題に対して、次のように取り組んでいきたい。

「朝読書」については、今後も教職員共通確認のもと、読書習慣の定着や質の向上等に取り組み、充実した時間となるような指導を継続していきたい。

「あいさつ」については、教職員が積極的にあいさつをしていくだけでなく、生徒と協力して、生徒の自主性を育てることも行っていきたい。

「部活動や学校行事」については、コロナの状況を考慮しながらではあるが、通常活動に向けて一つ一つ丁寧に取り組んでいきたい。

4 学校関係者評価

I 第1回学校関係者評価委員会

実施日：令和4年8月26日（金）午後7時

会 場：白根御勅使中学校会議室

出席者：学校関係者評価委員・・・秋山 契（委員長） 入倉浩二（副委員長）

有野正也 茂木晋一 三井美由紀

学校職員・・・・・・・・ 岡こずえ（校長）大間俊男（教頭）堀内美紀（教務主任）

1 学校側から提案された内容

- (1) 白根御勅使中学校 学校関係者評価委員会会則について
- (2) 学校評価の目的について
- (3) 学校評価の方法について
- (4) 前期自己評価及び生徒アンケートの結果について

2 協議された主な内容

- (1) 自己評価結果についての全体評価
- (2) 自己評価結果から課題となる項目について
- (3) 生徒アンケートの結果と課題となる項目について
- (4) その他

II 令和4年度 南アルプス市立白根御勅使中学校 学校関係者評価書 (写)

平成4年9月2日（金）

学校関係者評価委員作成

まず、学校側より職員の自己評価の傾向は、全25項目中24項目がA判定となっており、B判定となった項目も小数第2位を四捨五入して平均が3.0となっていることからA判定に近いとみることができる。このことから本校の教職員がそれぞれの項目に対して、高い意識を持ち誠実に取り組んでいるとの説明があった。また、生徒アンケートについては、全項目がA判定であったこと。本年度前期の白根御勅使中学校の生徒は、大きな問題行動もなく、授業や部活動に真面目に一生懸命取り組む姿が見られていること。さらに現在、少しずつではあるが、教育活動を以前の姿に戻していくことを本校職員一丸となり知恵を出し合い、工夫しながら行っていることなどの説明を受けた。

話し合いでは、資料1-3の教員の意見「生徒のあいさつについてあまり積極的ではない。こちらからの働きかけが必要か」について、実際近所であいさつの声かけを続けることで小学生から声をかけてくるようになってきた。やはり、大人からの働きかけは必要だと思うという委員からの話や同じく委員より、源小の近くでは、以前から（遠くの畑にいる人にも）中学生が大きな声で気持ちよくあ

いさつをしている話があった。大人が継続して行うことで、生徒が自主的に動けるようになってくると思うので、学校としても取組を継続してほしい。

次に、資料2-3の生徒アンケートの意見がよく書けているとの意見があった。昨年度までは「御勅使中のよいところを」という項目だけであったが、今年度は良いところだけでなく、「直した方がよいところ」という項目も加えたとの学校側からの説明もある中で、「生徒たちが自分の考えをしっかりと持ち、書けていることに感心した。自分の考えを悪いことを含めて書けるということは素晴らしいことである。」との意見があった。生徒自身が自分の考えをしっかりと伝えることができる環境づくりに今後も努めていってほしい。

次に、資料2-4の20-2について、委員より「実際、悪口を書いたりしている生徒がいるのか。」との質問があり、「実際にいる。しかし、本音で書けているということは、してはいけないと分かっていると捉えることもできる。逆に、しているが いいえ と答えている生徒もいると想定して今後も指導していく。」との説明を受けた。委員からは、「やはり、言葉で書かれるとメンタルをやられてしまう。新聞等でも取り上げられているが、こわいと感じる。このような傾向は、中学校としてはどう思っているか。他の中学校も同じような状況なのか。」と続けて質問し、「1人1台端末を利用している状況だが、生徒が禁止されていることを行うと、市教育委員会が把握できるシステムになっている。使い方の指導もしているが、実際はゼロではない。」との説明を受けた。SNSについては、今後もかわっていくことなので、どのように利用していけばよいのか、学校で取り組んでほしい。

次に、「資料2-3 ▲の意見（男子バスケ部、髪型）についての学校の対応はどうしていくのか。」との質問を委員から出された。「部活動については、以前に比べてグラウンドが寂しくなっている。今年度は野球部は3名、サッカー一部が廃部になるなど、部員数にも偏りが見られる。また、教員の数は生徒数によって配置される。教員の働き方や生徒の安全確保を考えると、複数顧問で部活動を行いたい。生徒の願いを聞いてあげたいが、現状教員の人数的に部活動数を増やすのは難しい。」との学校側から説明を受けた。また髪型については、「現在検討を始めている。決まりについては、押し付けるというよりも自分たちで考えさせるようにしていきたい。身なりについては社会性を身に付けるということも踏まえ、教育的な課題として生徒たちと対話をしながら決めていきたい。少し時間を要してしまうが、生徒が自分たちのルールと思えるような形で進めていきたい。」と説明を受けた。

次に、資料1-1朝読書について「子供のクラスでは朝読書の時間に読書をしていない生徒もいると聞いている。3年生になり、勉強も気になる子もいるので、読書か勉強か、自分で選択できるようにはならないか。」との意見が委員よりあった。「朝読書の目的は、落ち着いた気持ちで1日をスタートするため。行事やテスト前などは例外として読書以外の活動をすることもあるが、基本的には朝読書の取り組みをしていきたい。3年生は入試に向けて不安な生徒もいると思われるので、学園祭後の9/12から朝学習の取り組みを始める予定。読書については、子供たちが活字を目にすることは大変価値のある取り組みと考えているので、続けていきたい。」と説明を受けた。

次に、「評価項目IV「生徒指導」に関しての改善策について。悩みを抱えている生徒を担当や学年職員だけに任せるのではなく、チームで適切に対応していくことはとても良いこと。」との意見を委員から受けた。学校側も「生徒支援委員会を週1回定期的に行っていて、スクールサポーターは元警

察官の方をお願いしているとのことである。悩んでいる先生にとっても、みんなで考えていけることはよいことだと考える。生徒指導となる問題が以前とは異なり、心の悩みを抱えている生徒が多くなっている。心の部分に関しては非常に難しいので、会議で専門の方にも入っていただいて対応して行けることは心強い。」と説明していた。

次に、資料1-2の18 いじめの早期発見について、「いじめを未然に防げずに自殺してしまっている子も実際にいるが、先生方は未然にどのような対応をしているのか。」との質問があった。「未然防止で大事なのは、あらゆる機会に子供の自己肯定感をあげること、子供のよいところを見つけ褒めてあげること。中学校は子供の様子を多くの目で見えあげられる環境である。本校は先生方と生徒の距離が近いと感じる。寄り添えば寄り添うほど、子供たちの中からSOSが出てくる。多くの先生方で生徒たちを見て、小さなことでも必ず情報共有をしている。何かあった際も教員が決めつけず、生徒の話を丁寧に聞いている。」と学校側の説明を受けた。委員からは、「親にも言ってくれないこともあるので、先生方に言える環境をつくってくれていることがうれしい。」と理解を示していただいた。

最後に、今回の学校評価を見る限り、子供、先生方、保護者の頑張っている姿が数字の上で出ている。この数値の多少の変動は過度に気にせず、今後も全体を見て頑張ってもらいたい。評価を見る限り、問題が起こっているようには見えない。これからも白根御勅使中の全教職員で生徒全員を見守ってほしい。

記載責任者

南アルプス市立白根御勅使中学校 学校関係者評価委員会委員長

秋 山 契 印